

## 【Khaṇḍana bhava-bandhana】解説⑧

シャームパダ タヴァ スリィパダ バーヴァ ゴーシュパーダ ヴァーリ ヤターイ  
8. Sampada tava śhrīpada bhava goṣhpada-vāri jathāy

富 あなたの 美しい人格 無限の問題 牝牛の足 水たまり へのように

プレーマールパナ シヤマ ダラシャナ ジャガ ジャナ ドウッカ ジャーイ  
Premārpaṇa sama-daraśhaṇa (×2) jaga-jana duḥkha jāy

愛+捧げる 同じ様に みる 世界中の人々 悲しみ苦しみ 消える

### <賛歌集の訳>

輪廻の大海も牝牛の足跡にできた水溜りに過ぎない。  
かれらの悲しみは羽のように飛び去ってしまう、おお、愛の捧げものよ。  
ハートにあなたの尊い御足をいとおしむ者すべてに、等しく愛を注ぐ化身よ！

### <内容>

あなたの美しい人格は我々の富です。我々の悲しみ苦しみは海のように大きく  
果てしないが、あなたの恩寵で牝牛の足跡にできた水たまり位に小さくなり、  
苦しみに満ちたこの世界を渡ることができる。  
シュリー・ラーマクリシュナは、すべてを一つとみなす聖者であられるから  
心で深く思えば、我々のすべての悲しみ苦しみが消え、迷いが無くなる。

### <語句解説>

Sampada : 富

tava : あなたの

śhrīpada : ※1. śhri 美しい+pada 足 (蓮の花) = この場合「美しい人格」

bhava : 今の世界と未来の世界との終わりのない無限の問題。

goṣhpada : ※2. go 牝牛+pada 足

vāri : 水たまり

jathāy : 例えばへのように

Premārpaṇa : ※3. Premā 純粋な愛+ārpaṇa 捧げもの

sama : ※4. 同じ。区別しない。

daraśhaṇa : 見る。みなす。

jaga : 世界、※前後関係で「宇宙」もある

jana : 人たち

duḥkha : ※5. 悲しみ、苦しみ、恐れ、不安

jāy : ※6. 消える、無くなる

※1. 例えはうつ病の人に精神科医が薬を処方したとしても、その人は病気の症状は改善されても幸せを得ることはできない。しかし、シュリー・ラーマクリシュナやイエスの教えはお金で買うことができない「特別な富」である。

シュリー・ラーマクリシュナの教えや生涯を読み、実践することで、我々は霊的なレベルでの本当の幸せ、至福を得ることができる。

また神様への愛も霊的な富。

我々の生活の中には家族、仕事、人間関係、自分の欲望などたくさん問題がある。このように世の中の苦しみ(マーヤ)は海のように大きく果てしないもので、寄せては返す波のように、無くなるとまた現れてくる。そして海の水のように決して無くなることはない。しかしシュリー・ラーマクリシュナの恩寵で、その果てしないこの世の「苦しみの海」をも渡ることができる。

## ※2. go 牝牛+sh+pada 足

田舎道は雨が降るとぬかるみ、そこを牝牛が歩くと水たまりができる。

果てしない苦しみ悲しみも、シュリー・ラーマクリシュナの恩寵で牝牛の足跡にできた水たまり位に小さくなり、一歩で渡れるようになる。つまり解決できるレベルにまで小さくなり、「乗り越えられる」という意味。

また輪廻の鎖からも解脱することができる。

## ※3. Premā 純粋な愛+ārpaṇa 捧げもの=愛している

この場合「愛している」のは誰なのか3通りあり、そのどれもが正しい。

① 「私はシュリー・ラーマクリシュナを愛している」という意味。

だから皆さんがシュリー・ラーマクリシュナへ純粋な愛を捧げる。

② 「シュリー・ラーマクリシュナは私(全ての人々)を愛してくださっている」という意味。

③ その両方。

※4. 人は姿形が異なって見えるので、我々は一人一人別々に見ていて他の人に対しての振る舞いが変わる。しかし聖者はすべてを区別しないで同じ存在として同一視している (**sama-darāśhaṇa**)。

人間と人間。人間と動物。動物と動物。ものと動物。ものと人間。人間と神。神と神のように、聖典の中にどれくらい違うのか解説がある。例えば人間と人間の場合なら、男性か女性かの違い、国籍の違いなどあり、また同じ日本人同士でも住んでいる場所、言葉も宗教も異なる。このように外見も内面も異なるので、我々が人に対する態度、話し方も変わる。

バガヴァッド・ギーターの考えでは2つの見方がある。

- ① タマスの見方：すべて異なる存在。好き嫌いなど感情で態度が変わる。
- ② サットワの見方：外からは別々に見えるが、霊的な見方で「すべての中のもの」は「同じ一つの存在」。

その「中のもの」とは2つの考え方がある。

- ① ギャーナ・ヨーガの考え方で→魂（アートマン）
- ② バクティ・ヨーガの考え方で→神様（すべての人の中に同じ神様が存在）

シュリー・ラーマクリシュナの信者にとっては、すべての人の中にシュリー・ラーマクリシュナを見る、深く思う事が大切。

そうすることですべての人を愛することができる。

そのようにみなすことができないと、我々は感情で振る舞い方が変わり、好き嫌いで態度が変わってしまう。

☞ 「スワミー・ヴィヴェーカーナンダの生涯」第5章 P118 より

<スワミー・ヴィヴェーカーナンダがアメリカに出発する前のエピソード>  
スワミー・ヴィヴェーカーナンダは、ケトリの王様（スワミー・ヴィヴェーカーナンダの弟子）が彼をもてなすために開いた音楽会に招待されたのだが、世俗の娯楽だったので断った。しかしその時、踊り子の歌を聴いてとても感動し「お母さん許してください。あなたの歌は私の意識を目覚めさせてくれました」と涙を流した。歌の内容はこうである。

「私は罪人ですが、あなたはすべての人の中に同様に神を見る人です。

それなのにどうして私を罪人と見ますか？

鉄は聖堂の中でも、肉屋のナイフとしても使われます。

しかし賢者のあなたが触れると、それは金になります。

きれいな水も汚い水もガンガーに流れれば、同じように聖なる流れになります。

あなたは sama-darāṣhaṇa なのに、なぜ私の罪を見るのですか？」

また、イエスの生涯にもマグダラのマリアの同じ様なエピソードがある。

聖書の中で、マグダラのマリアは「罪人」として人々から石を投げられた話があるが、その時イエスは「あなた方の中で一度も罪を犯したことの無い人が石を投げよ」と言われ、だれも投げるができなかった。後にマグダラのマリアはイエスの敬虔な信者になった。

また、ギリッシュ・チャンドラゴーシュも非道徳的な人だったが、後にシュリー・ラーマクリシュナの偉大な信者になった。

別のエピソードでは、ベルル・マトのシュリー・ラーマクリシュナの祭りに不道徳な女性が来た時、どうして神聖な僧院にこのような女性が来たのかと、弟子たちはスワームīj (スワームī・ヴィヴェーカーナンダ) に文句を言った。

しかしスワームījの答えはこうだった。

「この種類の人たちがもっと来るといい。普通の信者がこなくても構わない。なぜならシュリー・ラーマクリシュナは悪い人、罪人を救うために現れたから」

人は「良くなりたい」と願うが、弱いからなかなかできない。

そして前世のサムスカルや環境、いろいろな原因で墮落することが多い。

しかしたとえ罪人でも、内面にはきれいな部分（魂）がある。シュリー・ラーマクリシュナはすべてを一つとみなす聖者（*sama-darśhaṇa*）で、その人たちを助けるために現れた。お釈迦様もイエス様も同じ。

「良くなりたけれどできないので助けてください」と心から願う人を、必ず助けてくれます。

ホーリーマザーも同じ。すべてを一つとみなしていたので、誰彼区別せず、マザーのところに來る人すべてをシュリー・ラーマクリシュナとみなし、すべての仕事をお世話（神への奉仕）としていた。

・□ （読む）バガヴァッド・ギーター：Chapter5-18 節

**真理に関する知識と謙虚な心を有する賢者は、僧侶も、牛も、象も、犬も、犬食いも、一切差別することなく、すべてを平等に観る。**

このサンスクリット語の部分の最後に *sama-darśhaṇah* が書かれている。

賢者（パンディット）は、ブラーミン（最高のカースト）だろうと肉屋（最低のカースト）だろうとカーストの違いで差別しない。（これはインドのカーストの例だが、どんな人やものも等しくみる）

・□ （読む）バガヴァッド・ギーター：Chapter6-9 節

**自分に好意を寄せる人や友人や無関心な人を、また仲裁者や自分を憎む人や友人を、さらに善人も悪人もみな平等に観る人は、まさに最上の境地に達した人と言えよう。**

このサンスクリット語の部分にも sama が書かれている。  
普通我々は「あの人は嫌い」「合わない」「友達」「罪人」など感情で区別したり避けたりする。しかし外から見たら別々に見えるが中は同じ存在。

・□ (読む) バガヴァッド・ギーター : Chapter6-29 節

また本当に真理を覚り、あらゆるものを同等に視る ヨーギーは、万物の中に自己 (アートマン) を見、自己 (アートマン) の中に万物を見る。

このサンスクリット語の部分にも sama-darśhanah が書かれている。

※5. duḥkha : .悲しみ、苦しみ、恐れ、不安。前後関係で「混乱」「失望」など  
反対語は sukha : 喜び、幸せ

☞ 「3種のドウツカとシャンティについて」を参照

※6. シュリー・ラーマクリシュナの御名を唱えたり瞑想したり、心で深く思うことで、我々の悲しみ苦しみは取り除かれる。そして必ず守ってくださる。